

平成29年度

学びに向かう力推進事業

取組のまとめ

平成30年3月

滋賀県教育委員会

目 次

はじめに	1
大津市立石山幼稚園、石山小学校 「人との関わりの中で、心豊かに思いを表す子どもを目指して」 ～振り返りを生かした幼小の指導の工夫～	2
甲賀市立伴谷幼稚園、伴谷保育園、伴谷小学校 「アプローチ・スタートカリキュラムの共同的研究」 ～保・幼・小における体験活動や言語活動を通した 学びの連続性を目指して～	4
近江八幡市立北里幼稚園、北里小学校 「学びに向かう力を育む保育や授業の在り方」 ～接続期におけるアプローチ&スタートカリキュラム～	6
甲良町立甲良西保育センター、甲良西小学校 「安心して生活できる環境となかまづくりの中で 『自ら学び遊ぶ』子どもの育成」 ～「語り」と“まねび”を通して、一人ひとりの 『ココロが動く』保育・教育の実践～	8
米原市立いぶき認定こども園、春照小学校 「主体的に学ぶ子の育成」 ～自己表現力を高める授業・保育を通して～	10
資料	12
I 学びの基礎指導の手引き（改訂版）（抜粋）	

はじめに

県教育委員会では、平成27年度より幼稚園・認定こども園等での教育・保育と、小学校以降の教育との円滑な接続を目指し、「学びに向かう力育み事業」および「学びの基礎体験型学習プロジェクト」を実施しており成果を見いだしてきましたが、本年度はその2つの事業を一体化して、「学びに向かう力推進事業」として取り組んでまいりました。この事業のねらいは、幼児期の教育と小学校教育との接続に配慮した教育課程の編成や、子どもたちの「学びに向かう力」の育成につながる指導内容や方法の工夫改善についての実践的研究を推進し、幼児期の教育の質的向上と小学校低学年における授業改善を図ることです。

指定を受けた園や小学校においては、それぞれの保育や授業を見合っってよりよい方法を探りながら研究を進め、保育・教育の充実や教育課程の見直しを図っていただきました。また、本年度10月～12月に、指定校園で開催いただきました公開保育・授業や研究協議会には、県内小学校、幼稚園、保育所、認定こども園等から、多数の先生方に参加いただき、幼児期からの学びに向かう力や小学校低学年における学ぶ姿勢、学び方、学習規範などの学びの基礎の育成について見直す機会になったと感じております。

今回の改訂では、小学校教育との円滑な接続がクローズアップされ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明確にされました。また、新しい小学校学習指導要領の中でも幼児期の教育との関連が随所に示され、特に総則の「学校段階等間の接続」では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫すること・幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施する」とされています。

このたび、まとめていただきました指定校園の具体的な取組をヒントにいただきながら、それぞれの校園で幼児期の教育と小学校教育の連携や円滑な接続に一層努めていただきたいと思います。

最後になりましたが、本指定事業に熱心にお取り組みいただきました指定校園ならびに、指定校園の研究を支えていただきました市町の担当課の皆様、研究に協力いただいた教職員の皆様に厚くお礼申しあげます。

平成30年3月

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

課長 西嶋 良年

研究主題：人との関わりの中で、心豊かに思いを表す子どもを目指して
～振り返りを生かした幼小の指導の工夫～

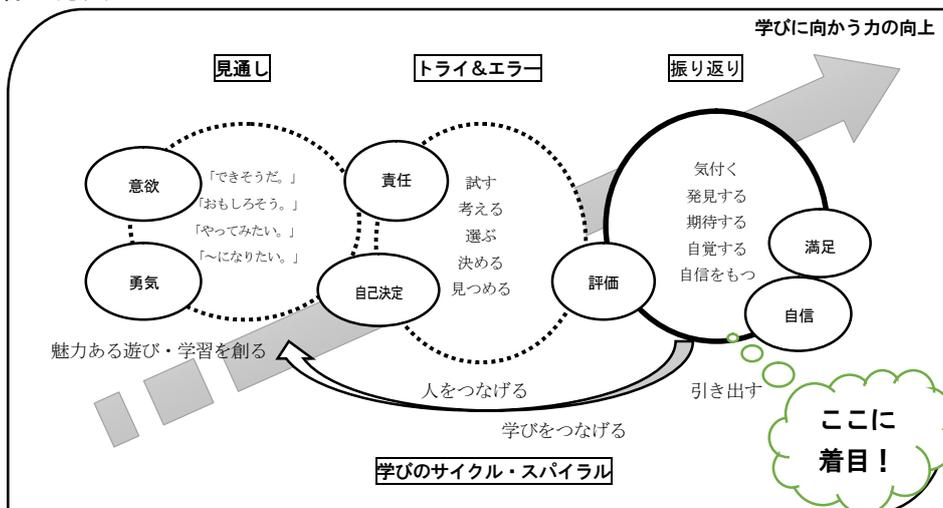
1 主題設定の理由

石山幼稚園・小学校の子どもたちは、全体的に明るく素直で、人懐っこい子が多い。また、興味・関心や意欲は高く、前向きに取り組める子が多い。

しかし、“受け身”的であり、与えられたり、背中を押してもらったりしないと動き出せない子、経験のないことや初めてのことに躊躇する子、周囲に流されてしまう子、自分のことに向き合えない子や自信がない子、生活や学習の中での様々な基礎・基本（技能、知識等）が確実に定着しにくい子が多いのも現状である。また、技能や表現が伴わず、十分に自己発揮しきれずにいる子、自分や他者のよさを積極的に見いだせずにいる子も見られた。

そこで、「あきらめずにやりきる子」「正しいことを勇気をもってできる子」「自己決定できる子」「自信をもって次のステップに向かえる子」「互いを認め合える子」をめざしたいと考えた。そして、子どもが実感・自覚できるような遊びや学習を、「見通し」⇒「トライ&エラー」⇒「振り返り」の「学びのサイクル・スパイラル」の中で、教師が意図的に仕組み、仕掛けることによって、めざす子どもの姿に迫れるのではないかと仮説を立て、合同研究の主題を「人との関わりの中で心豊かに思いを表す子どもを目指して～振り返りを生かした幼小の指導の工夫～」と設定した。

2 研究の目標と方法



「幼稚園と小学校の教員が、互いの教育のよさ・“文化”のよさを知り、指導に生かす」ことを大前提・基本スタンスとした。

そして、保育・授業を構想する際に、「見通し」「トライ&エラー」「振り返り」「学びのサイクル・スパイラル」を意識し、「振り返り」に着目しながら丁寧に子どもの姿を見取り、保育・授業改善に努めることを研究の方法の一つとした。

幼稚園では、「ふりカエルシート」に事例（子どもが言葉、動き、表情などに表して自己を振り返っている場面・ここで振り返りをしていれば、子どもの学びにつながっていたのではないかと思われる場面）を書き、保育を省察した。また、日頃から保育記録を通して保育を語り合うことを研修として位置付け、教師自身が子どもの見方を広げ、多種多様に保育を捉えられるようにした。保育の実践では、遊びの終わりやクラスでの話合いの時間など様々な場面で、その日の遊びの目的、楽しかったこと、成果などを友達や教師とともに振り返る機会を設けることで、子ども自身が気付く姿に着目し、保育のつながりを意識できるようにした。

一方、小学校でも、学びの自覚を促す授業づくりを目指し、学習後に振り返りを表現する場を設けるようにした。「振り返り」に何を書かせたいか・どんなことが言えるとよいかということから指導のねらいに立ちもどり、単元や単位時間の授業を構想・構成した。

また、幼小互いの保育・授業を見合い、直後に子どもの姿をもとに研究協議を行い、成果と課題を見いだすことも研究の方法の一つとした。

「一人ひとりの興味関心によって、じっくり試すこと…幼小どちらも大事ですね」



3 研究の成果と課題

実際に保育や授業を参観したり、幼稚園と小学校の教員が一堂に会して交流したりすることを通して、互いの特性や独自性、育ちのつながり、各々が大事にすべきこと、互いに参考にすべき視点に気付くことができた。

(1) 子どもの「振り返り」に着目して、見えてきたこと

幼稚園

【めざしたい子どもの育ち】

- ・興味をもつ。 ・存分に遊ぶ。 ・楽しいと実感する。 ・「またやりたい!」と感じる。 ・友達とともに楽しむ。

〈指導者のスタンス〉

- *子どもの“気づき”を「見守る」, 気付かせる。 *個々の興味に寄り添う。*意図をバランスよく込めた環境をつくる。

子どもがいきいき楽しく学習・活動しているか?

幼稚園・小学校 共通

【めざしたい子どもの育ち】

- ・人や物に関わる力 ・人に対する関心(共感・学び合える力)
- ・試行錯誤しようとする事 ・吸収する力 ・感じ取る力
- ・感性 ・粘り強さ ・気持ち・思いの表現力 ・選ぶ自主性

幼稚園・小学校 共通

〈指導者のスタンス〉

- *その子が何を求めているのか? …一人ひとりの思いを理解する。
- *子どもの“やってみよう”を 実現可能にする。
- *子どもの「こうしてみよう」を つぶさない。
- *一人ひとりの力量を理解しておく。
- *その子に付けたい力を見つめる。
- *その子の発達に歩み寄る。
- *支援の尺度を意識する。
- *見守る姿勢を意識する。
- *自分で気付いたり考えたり 動き出したりすることを大事にする。

小学校

【めざしたい子どもの育ち】

- ・「知っている!」「できそう。」「やってみよう!」…経験から動く。
- ・まねをする。 ・段取りを組む。
- ・自己選択・自己決定する。 ・活用・転用・一般化する。
- ・他者や事物との関わりを通して最適解を見つける。

〈指導者のスタンス〉

- *個々の人間関係を把握する。
- *実態と付けたい力を見極め、単元や授業を構成する。
- *子どもにとって価値や必然性のある課題を設定する。
- *立ち止まって考え、表現する場を仕組む。
- *さまざまな過程を保障する。

(2) よりよい幼小連携・接続のために・・・幼小接続がうまくいく5箇条!石山バージョン

- 一、ふだんの生の保育・授業を見に行こう!
- 一、課題を共有し、ともに振り返ろう!
- 一、意見・情報交換を通して知ろう!
- 一、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を共通認識しよう!
- 一、1ism・・・石山の子どもは、保幼小中全職員で育てる!

「どんな子どもを育てたいのか。」「そのために、何を大事にして、どんな手立てをするのか。」ということを幼稚園・小学校共通に、かつ具体的に考えていくことが大切である。互いの保育や授業を見て、子どもの姿から語り、実感することが、次の保育や授業につながっていく。今後も連携・接続をよりよいものにすべく、方法等を探っていききたい。

第2ブロック：甲賀市立伴谷幼稚園・伴谷保育園・伴谷小学校

研究主題：アプローチ・スタートカリキュラムの共同的研究

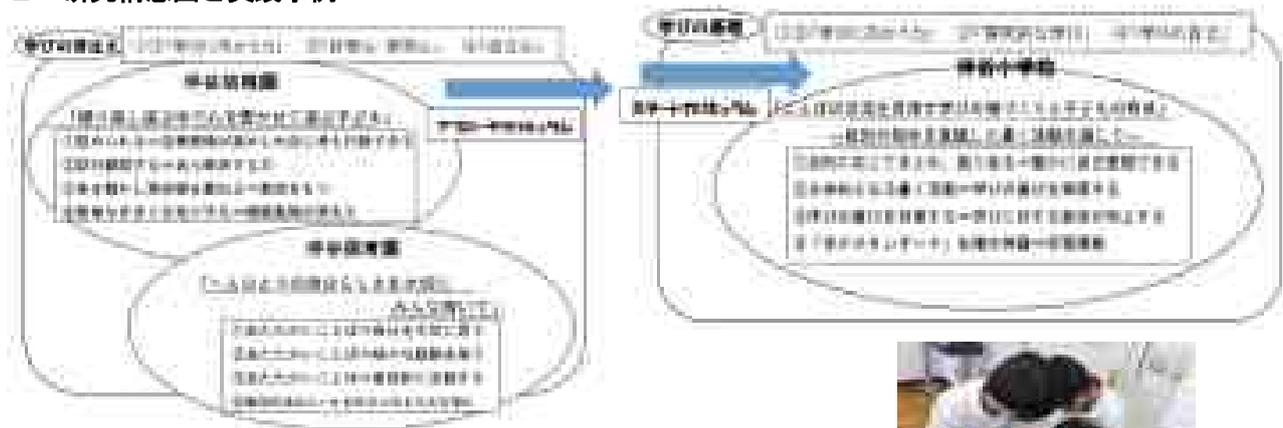
～保・幼・小における体験活動や言語活動を通じた学びの連続性を目指して～

1 主題設定の理由と研究の方法

幼児期における学びの芽生えは、生活と遊びの中で育まれていくものであると考える。学びに向かう力、人と関わる力、生活する力が小学校の学びにつながることを幼稚園、保育園、小学校が今回の研究を通して意識し、教師・保育者同士が互いを理解することに結びつけ、その相互理解が、子どもの発達連続性を保障するものになると考えた。今年度、幼稚園は「運動」、保育園は「言葉」、小学校は「言語活動」をテーマに研究を進め、系統的・発展的な学びの連続性を目指すこととした。そこで、保育や授業における子どもの姿を交流し、さらに校園での公開保育、研究授業を参観することで、子どもたちの実態に即したアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを作成したいと考え、この主題を設定した。

保幼小合同のブロック別研修会では、それぞれの立場から意見交流を行い、講師指導のもとスタートカリキュラムを作成することで、保育者と教師の交流を深め、相互理解の機会とする。また、五・五交流や長期休業を利用した教師の保育体験を行う。

2 研究構想図と実践事例



【伴谷幼稚園】

運動会にむけてリレーでの取組の事例



育てたい力

- ・やりたいという意欲をもって遊びに取り組む
- ・感じたことや思っていることを友達や保育者と伝え合う

保育者のかかわりのポイント

- ・やってみよう、試してみようと思える環境を用意する
- ・子どもの発言を待ち友だち同士が思いを伝え合おうとする姿を見守る

考察

子どもたちが興味をもっていること、心が動く瞬間を見つめ遊びの展開を見通してそれに合わせた環境構成や言葉かけをしていくことが大切だと思う

【伴谷保育園】

グループに分かれて、グループ名を考える活動の事例



育てたい力

- ・友達同士での言葉による伝え合い
- ・数や文字への関心
- ・互いの思いや考えを共有する力

保育者のかかわりのポイント

- ・幾つかの約束を事前に伝えておき、子ども達同士で決める姿を大切に、必要な時にだけ声を掛ける
- ・困っている時には、幾つかの例を挙げ、子ども達で決められるようにする

考察

・決め方を子ども達に任せることで各グループ様々な思いを出すことができた

時間を保証することで、一人ひとりが納得する形で決めることができた
○が5つ並んだ紙を置き、5文字の言葉を可視化することで子ども達がイメージしやすくなった

【伴谷小学校】

国語科「きかせてきかせてなりきり発表会」

単元で身に付けたい言語力

一友だちに興味のあることや聞いてみたいことを質問したり、感想を言ったりする力

手立て

- ①友だちのことを代わりに伝えるという目的意識がもてるようにする
- ②ペアでのインタビュー活動
- ③ワークシートの活用（メモする習慣）



3 幼児期の学びに向かう力を小学校へつなぐ取組（アプローチ・スタートカリキュラム作り）

平成 30 年度 伴谷幼稚園・伴谷保育園「アプローチカリキュラム」

5歳児				
ねらい	乳幼児期における「早寝・早起き・朝ごはん・挨拶・読書・運動などの基本的な生活習慣を身につけ豊かな心と健やかな体や人とかかわる力を培い、夢と生きる力を育てる。			
時期	5歳児Ⅰ期(4月～5月)	5歳児Ⅱ期(6月～9月)	5歳児Ⅲ期(10月～12月)	5歳児Ⅳ期(1月～3月)
健やかな体運動	進んで身体を動かし友達と楽しんで遊ぶ。 ・さまざまな遊具や用具を準備し全身を使ってあそべるようにする。 ・戸外で友達と体を動かして遊ぶ心地よさやルールのある遊びの楽しさを感じられるような機会をつくる。 ○地域の自然に積極的に出かけ自然の中で体を動かして遊ぶことを楽しむ。	友達存在を認めながら見通しや目的をもって遊ぶ。 ・自分なりの目当てをもち挑戦する意欲を育てる。 ・友達と一緒に全身を使って思いきり遊ぶことを楽しめるように環境を工夫する。 ○友達と一緒に全身を使ってダイナミックに遊び試したり工夫したりする。	友達と共通の目的をもっているいろいろな運動遊びをする。 ・友達と共通の目的を持って繰り返し遊ぶ中で、競い合ったり、励ましあったりしているいろいろな運動遊びを楽しむように援助していく。 ○友達と一緒に体を動かし、いろいろな運動遊びや集団遊びに意欲的に取り組む。	友達との関係を深めながら自分の力を十分に発揮して運動遊びに取り組む。 ・自分なりの目標に向かっていろいろな運動遊びに意欲的に取り組み自信をもてるようにする。 ・友達といるいろいろな運動遊びに取り組む、やり遂げた充実感や達成感を味わえるようにする。 ○友達といるいろいろな運動遊びに意欲的に挑戦し、充実感を味わう。
人とかかわる力言葉	絵本や物語などに親しみ、イメージや言葉を豊かにする。 人の話を注意して聞き、相手にわかるように話す。 ・子どもの豊かなイメージや言葉に関する感覚を養うために、季節や子どもの発達や環境に合う本を読み聞かせたり、保育室に置いておいたりする。 ○自分の思いを言葉にして伝える。	いろいろな体験を通じて、言葉を豊かにする。 ・友達とかかわって遊ぶ姿を見守り、互いの思いが伝わりあうように必要に応じて言葉をかける。 ○いろいろな体験を通して、自分の思ったことを保育者や友達と伝え合う。	自分の思いを言葉で伝え合うことで、友達の思いに気づいたり、共感したりする。 ・グループやクラスの友達と協同して遊ぶことを通し、充実感を味わえるように環境を整え、思いがぶつかり合った時には、折り合いがつけられるよう促す。 ○自分の思いを言葉で伝え合うことで、友達の思いに気づいたり、共感したりする。	考えたこと、経験したことを保育者や友達に話し、伝え合うことを楽しむ。 ・いろいろな遊びを通して、文字や数字、言葉に興味・関心を広げる。 ・自分の思いを相手に伝え、伝わる喜びを感じ、お互いの存在や考えを認め合いながら協同して遊ぶ楽しさや充実感を味わえるようにする。 ○感じたことや考えたことを言葉に出して、仲間と伝え合おうとする。

平成 30 年度 伴谷小学校「スタートカリキュラム」

本校におけるスタートカリキュラム構想案



一付箋を使ったカリキュラム作成ブロック別研修会において、保幼小合同スタートカリキュラム作成を行った。各立場の視点に立ち、相互の思いを伝え合い交流を通して、相互理解を深め合うことができた。

4 研究の成果と課題

小学校では、園での子どもたちの様子や特徴を知ることができ、支援の仕方や授業づくりに見通しをもって取り組むことで、園との接続を意識した系統的・発展的な学習、学校生活をつくりあげていくことの重要性に気づくことができた。幼稚園・保育園・認定子ども園・未就学・外国籍等様々な環境で育ってきた子どもたちに対応したスタートカリキュラムを作成することは非常に難しく、今後の課題である。

保幼では、日々の保育の中で、学びに向かう力が“いつ”“どのような場面で”育っているかをみとり、小学校の学びにどうつなげるかを職員間で共有することが大切だと感じた。園で身につけてきた力を小学校でも発揮できるよう、それぞれの園の持ち味を生かしつつ、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を通して、園が学校へ伝え、共有していけるように今後も取り組んでいきたい。

第3ブロック：近江八幡市立北里幼稚園・近江八幡市立北里小学校

研究主題： 学びに向かう力を育む保育や授業の在り方 ～接続期におけるアプローチ&スタートカリキュラム～

1. 主題設定の理由

北里幼稚園や北里小学校の子どもたちは、人懐っこく遊びや学習にとっても意欲的である。しかし、見通しがもてないと遊びや学習に不安を感じる姿もある。また、幼小連携においては新入児の引継ぎを始め、5歳児と様々な学年の小学生との交流や運動会や音楽会の参加など、子どもの交流の機会が多くあるが、幼小の滑らかな接続については一緒に話し合う機会も少なく、アプローチ・スタートカリキュラムのようなきちんとした形のものがない状況であった。

北里幼稚園は平成29年1月から7月までの間耐震補強工事のため、北里小学校を仮園舎とし過ごした。児童と幼児が同じ場所で過ごす中で、小学生がしていることに園児が興味関心をもって刺激を受けたり、園児の遊びに小学生が関わって遊びを教えたり、子どもたち同士がふれあいながら様々な交流をする姿が見られた。

子どもたちのこのような姿をきっかけにして、互いの職員が子どもたちの姿を見取り、共に話し合いながら、幼稚園での遊びを通しての学びの意味を改めて探ったり、それを小学校に入学した時のつまずきや段差の軽減、授業を通しての学びへとどうつなげていくかを考えたりしていきたいと思い、アプローチ・スタートカリキュラムの作成を通して学びに向かう力を育む保育や授業の在り方を探ることにした。

2. 研究の目標

幼稚園・小学校の教師が保育や授業、生活の様子を観察し、互いの子どもたちの姿から考えるつまずきや育ちなどをとらえていく。それを基に本学区としてのアプローチ・スタートカリキュラムを作成し、滑らかな接続となるように保育や授業を探っていく。

3. アプローチ・スタートカリキュラム作成に向けた取組

①教師同士が子どもを見る視点を刷り合わせていくことを目的に、研修用DVDを見て意見交流をする。

→「幼稚園でも友だち同士で相手のことを考えた話や気付き合いができることに驚いた。」「映像の中で“小学校で手を洗ってポケットにハンカチが入っていない”場面を見て、北里小学校でも同じような姿を見る。」「牛乳パックの処理一つでも、小さな段差を感じる。」など、つなぎや迎え入れについて考えるきっかけとなった。

②幼稚園・小学校の教師が、互いの保育や授業、生活などの子どもの姿を観察する。(複数回観察期間を設ける)

③観察したことを持ち寄り、グループ協議会を行う。

→主に“入学当初のつまずき”を出し合いながら、幼小それぞれで接続が滑らかになるためにどのような活動や援助が必要であるか話し合った。

④グループ協議会で出た意見を推進委員が中心となって集約する。

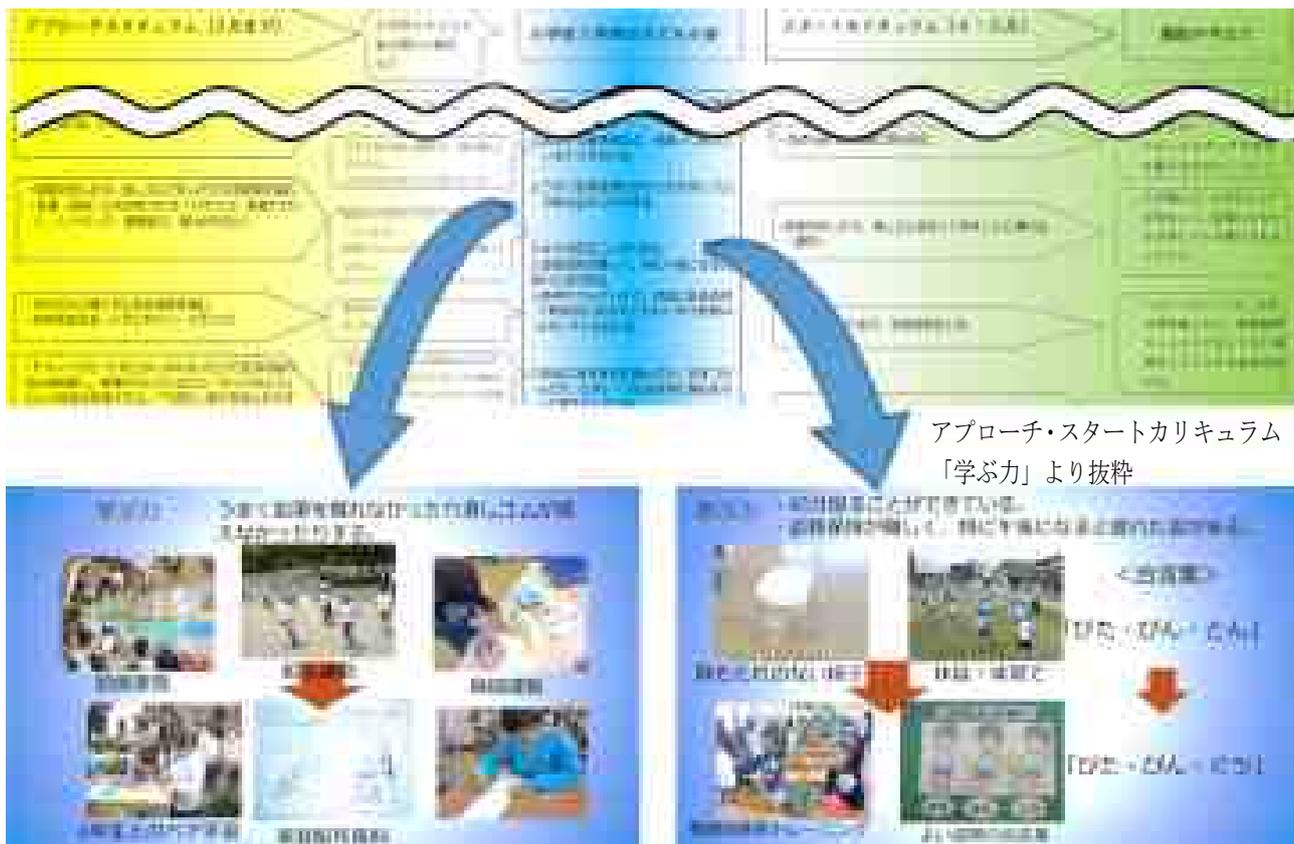
→そこから見えた姿を「学ぶ力」「人と関わる力」「生活する力」の3本の柱として、それぞれの視点を振り分け作成していく。

⑤作成したカリキュラムを再度各校園で検討する。

→幼稚園では“入学当初の姿”の要因を探り、解決に向けた保育作りを考え合い、小学校ではスタート期における活動やその時に必要な援助や手立てを探り保育や授業の在り方を探った。



3. 研究の取組で作成をしたアプローチ・スタートカリキュラムの一部と、取組事例



幼稚園での取組を小学校の学習へとつなげていく。

合言葉を共通化することで子どもたちの意識をつなげていく。

4. 研究の振り返りと課題

<幼稚園>

- ・アプローチカリキュラムの作成を通して、子どもたちの経験や活動がどのようにつながっていくのを見通すことができた。普段の遊びや生活の意味を再認識し、保育作りや保護者啓発にもつながった。
- ・スタートカリキュラムを先取りして就学前のアプローチをそのまま早期から取組むのではなく、教育課程を基に、発達を見通しながら、その年齢に合った経験の積み重ねや取組み方を工夫するよう留意する必要があると考える。

<小学校>

- ・交流を通して、就学までに子どもたちが様々な経験や自信を身につけてきたことを再確認する機会となった。「できないことをできるようにする」観点だけでなく「子どもたちのもっている力や良さをどう生かしていくか」という観点で見ていく必要性を感じた。
- ・就学前教育の指導の仕方や環境など、気付いたり学んだりしたことをさらにスタートカリキュラムに生かしていきたい。
- ・小学校としてはスタートカリキュラムから次学年に向けて、どのようにステップアップしていくか検討していきたい。

<幼小共通>

- ・アプローチ・スタートカリキュラムを共同で作成していく中で、互いに大事にしているところを認識し合えた。また、子どもの姿や保育・授業作りなどをざっくばらんに話し合うこと自体が連携・接続につながることを改めて感じた。
- ・今年度の一年生の姿を基に作成したのだが、取り組みとしてはこれからとなる。今後、さらなる検証をしてよりよいものとしていけるようにしたい。
- ・今回の研究は、小学校と幼稚園で研究を進めてきたが、学区内には複数の保育園もある。今後保育園とも連携をとりながら検討し、就学前で共通したカリキュラムにしていくことが必要と考える。

第4ブロック：甲良町立甲良西保育センター・甲良西小学校

研究主題：安心して生活できる環境となかまづくりの中で『自ら学び遊ぶ』子どもの育成
～「語り」と“まねび”を通して、一人ひとりの『ココロが動く』保育・教育の実践～

1、主題設定の理由

本学区の子ども達の課題より、家庭基盤の弱さ、生活経験の少なさ等が子どもたちの生活に大きく影響していると考えられる。こういったことにより安心・安定した園・学校生活の保障を行うことが、子ども達の学びに向かう姿勢を育むことに繋がると考え、日々の保育・教育の在り方、心動く環境の見直し、保育者・教師の指導・支援や子どもの捉え方等について検討し、実践を進めていった。子どもは成長発達の過程において、他者から真似て学ぶこと“まねび”を繰り返しながら成長し、言語的で対話的なやりとり「語り」の中で考えたり、自分自身を振り返ることができることを踏まえ、仲間と共に学び合う活動を通して学びが深まることを共通理解し、子どもたちが意欲的に考え、活動できる保育・授業を目指して取組を進めたいと考えた。

2、研究の内容と方法

幼小連携に繋がる観点として以下の点から取組を進めた。

- ① 安心して生活できる環境づくり
- ② 教師、保育士と子どもとの関わりについて
- ③ 子ども同士の関わりについて
- ④ 「自ら学ぶ子」の育み方

・合同研究推進委員会

子どもの実情を捉え連携や接続課題の検討を行う。

アプローチ・スタートカリキュラムの検討・修正を行い保育・教育に反映させる。

・幼小交流研修会

保育（授業）参観および体験を行い互いの保育・教育を交流し合う。

合同研修会や検討会を実施し、子どもの学びについての理解に繋げる。

・事例検討会

日々の実践を書き留め、学びの継続を意識した実践交流を行う。

3、実践事例

○甲良西保育センター 【活動名：やっぱり、竹になった！ 5歳児】

本当にたけのこは竹になるのか？という疑問をもちクラスみんなで観察し続けた。そして、実際に竹になったことを見た日のサークルタイムで子どもたちが様子を伝え合った後、次はどうなっていくのか考えてみた。

子どもの姿（まねび・語り）	★保育者の見取り ●環境及び援助	活動を通して育まれる10の姿
<p>「このままぐんぐん伸びて宇宙までいくんとちがう！」</p> <p>「そんなわけないやん。周りの竹は止まっているやん」</p> <p>「上も竹になるとちがう。」</p> <p>「長さ、また計ろう。」</p> <p>「(竹の) 中はどうなってるかな？」</p> <p>「また、見に行ったらいいやん。」</p> <p>それぞれが予想することを保育者や友だちに話した。</p>	<p>●子どもたちの「不思議だな、どうなっているんだろう。」という気持ちを大切に、次の活動に繋げていけるようにする。</p> <p>★イメージをふくらませている。</p> <p>★今までの実体験から予測を立てている。</p> <p>★長さに関心が向いてきている。</p> <p>●それぞれが考えていることを大事にしながたけのこの成長を継続していけるようにする。</p>	<p>○健康な心と体</p> <p>○自立心</p> <p>○協同性</p> <p>○思考力の芽ばえ</p> <p>○自然との関わり・生命尊重</p> <p>○数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <p>○言葉による伝え合い</p>

○甲良西小学校 【活動名：かけ算「ばい」の用語と意味を理解しよう！ 2年生】

かけ算の単元を進めていくにあたって、算数科へ苦手意識をもっている子への支援として、児童の身近なものから学習課題を設定することで、学習意欲の喚起を図った。また、児童の学びの過程を丁寧に見取することで、次時への学習意欲の向上につなげていった。

本時の「ばい」の概念の理解については、具体物を操作する活動を仕組むことで、イメージがつかみにくい子への支援とした。【○cmのテープの△ばいの長さは何cmですか】という学習課題をもとにした『ばいばいゲーム』に親しむことで、友だちと楽しく協力し合いながら学びを深める学習を考えた。

子どもの姿（まねび・語り）	☆学習活動 ●学習支援	活動を通して育まれる10の姿
<p>「楽しそうだな。」 「ぼくもやってみたいな。」 「早くやってみたいな。」 「どんな問題を作ろうかな」</p> <p>「5cmが2つだとおもうから、テープを合わせてみようかな。」 「正解だよ。次はもっと難しい問題にしていいかな。」 「○○くんは、考え方をわかりやすく教えてくれたよ。」 「『ばい』って、どういう意味かわかってきたよ。」 「かけ算を使うと、長さがかんたんにわかるなあ。」 「()には9までの数字しか入れられないが、10より大きい数を入れても長さがわかるのかな。」</p>	<p>☆『ばいばいゲーム』のやり方を知る。 ●教師と代表の児童とが、実際に黒板でゲームを行い、やりかたをわかりやすく伝える。</p> <p>☆ペアで『ばいばいゲーム』を行う。 ※ゲームについて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>5cmの()ばいは何cmですか。</p> </div> <p>出題する側が()に任意の数を入れる。答える側は、磁石で作った5cmのテープを操作し、答えの長さにする。式と答えもホワイトボードに記入する。 ●「ばい」の用語の理解が弱い子には、「○ばい」とは、「○こ分」だということをつり返らせる。</p>	<p>○数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ○思考力の芽ばえ ○自立心 ○協同性 ○言葉による伝え合い ○豊かな感性と表現</p>

4、研究の成果と課題

年間を通して、幼小連携に取り組むことにより教師・保育者の交流が深まり、互いの理解に繋がった。具体的には以下の点があげられる。

- ・アプローチ・スタートカリキュラムの検討・修正を行うことで子どもの実情に合ったものとなり、実践に生かせる内容となった。また、意識して指導案に取り入れることにより、学びが継続され授業・保育内容が充実した。
- ・小学校では保育体験をすることにより園の取り組みが分かり、子どもの学びや経験を授業に生かすことができた。今後は保育センターの活動を生活科に生かせるようにしていきたい。
- ・保育センターでは交流研修会をすることにより、園で育んだ力が小学校でどのように生かされているのかが分かり、小学校への学びを意識した保育に繋げることができた。今後も幼児期の終わりまでに育てほしい力を意識した保育の充実に努めたい。
- ・保育センターでの経験や学びが小学校で生かされ、入学時に無理なく小学校生活に移行するためには、保育センターで身に付いた力について1年生の担任と引継ぎを行うと同時に、1年生の年度当初の指導案作成に5歳児担任が関わることなど、今後の対策案も考えることができた。

今年度だけに終わらず、成果・課題を踏まえ子どもの学びが円滑に移行されるように今後も幼小連携を継続していきたい。

第5ブロック：米原市立いぶき認定こども園・米原市立春照小学校

研究主題：主体的に学ぶ子の育成

～自己表現力を高める授業・保育を通して～

1 主題設定の理由

いぶき認定こども園と春照小学校は、伊吹山の麓に位置し、比較的のどかな地域にある。

近年の子どもたちの様子は、素直で、決まったことに対しては真面目に活動に取り組むものの、自分の意思で考えたり、自分の言葉で発信して友だちと折り合いをつけたりする力が弱いと感じる。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領や学習指導要領の改訂でも強調されている通り、弱いと感じる上記の力は、今後子どもたちが現代社会を生きていくうえで、求められる力であり、あわせて就学前の生活から小学校へと連動して考えていくことが必要であると考え。

このことから、上記の通り第5ブロックの研究主題を設定した。

2 研究の目標

- ・ 両校園で、子どもの実態から目指す姿や、研究を進めるうえで視点となる具体的項目を共有する。
- ・ 各校園で共有した視点を基に研究を進める。その過程で、学びに向かう力を育むために大切にしたいこと、必要なことを整理し、定期的な校園交流会でさらに共有する。
- ・ 学びに向かう力を育むために、授業・保育以外の効果的な連携のあり方を検討し、実践する。

3 実践事例

(1) 米原市立いぶき認定こども園の取組

学びに向かう力を育むためには、基本的自尊感情をベースにした保育の充実を図ることが大切だと考え、個々の子どもの心情を追いながらいねいに公開保育、事例研究会を進めてきた。

そして、子どもが成長していく過程で自尊感情の芽はあらゆるところにあるととらえ、その芽を育み花咲かせていくために、チャンスを見逃さずに保育者の言葉かけや場所、物、遊びのアイデア、友だちとの関わり、クラス運営といった援助のシャワーをたっぷりと与えることが必要である。

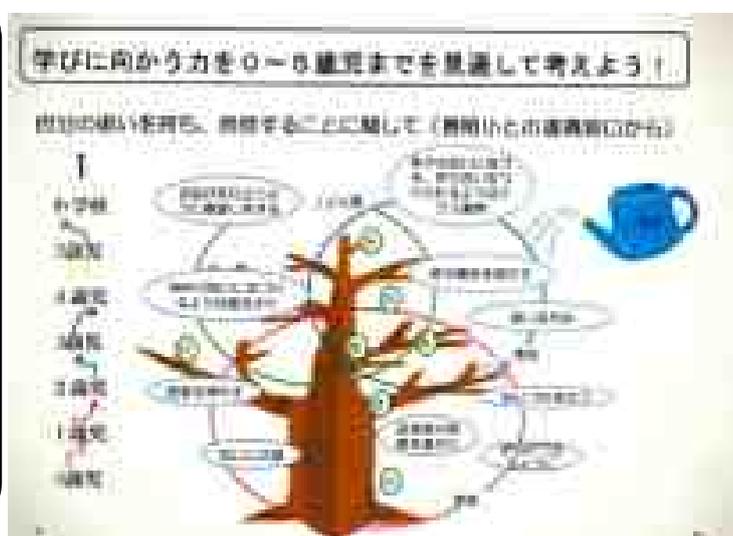
同時に、保育（学び）を充実させることが重要で、0歳児から5歳児まで子どもの育ちがつながっていることを意識しながら、心が動く保育、やってみようと思える保育に努めてきた。

《小学校との共通視点「言葉の力・コミュニケーション力」にかかわって》

子どもが『自分で考え、自分で判断し、自分の言葉で発信する』には、

- ・ 様々な子どもの思いを保育者が受け止めること
- ・ うまく伝わらないときには代弁すること
- ・ 保育の中で話す機会を増やすこと
- ・ 相手の思いに気付き自分の気持ちに折り合いをつけられるような仲間がいるクラス運営をしていくこと

などが必要であり、0～5歳児まで、子ども自身が、周囲の刺激を受けながら、紆余曲折を経て成長していくということを、職員間で確認することができた。



(2) 米原市立春照小学校の取組（1年生：生活科）

【単元名】 たのしいあき いっぱい ～『秋のたからものまつり』をひらこう！～

【学習活動】

- ①秋を見つけよう・・・校庭や学校周辺で、秋見つけをする。
- ②公園で秋を見つけよう・・・教育の森やひばり公園などに出かけ、秋見つけをする。
- ③葉っぱや実で遊ぼう・・・見つけてきた秋の宝物を使って、どんぐりごまやまつぼっくりけん玉、自分で作りたい遊びなどを考えて友だちと楽しく遊ぶ。
- ④見つけた秋を紹介しよう・・・自分たちで考え、作ったお店に年長児を招待し、一緒に楽しむ。

【「学びに向かう力」を育てるために、力を入れたこと】

- ひとりの“気付きや発見”を、みんなの学びに広げる。
- 「何だろう?」「不思議だな?」の気持ち“?”を大切に、知りたい・調べてみたいという思いを膨らませる。
- まずやってみる→試してみる→もう一度やってみる→聞いてみる→工夫してみる・・・など、仲間と試行錯誤や工夫をしながら、五感を通して意欲的に取り組む姿勢を育てる。
- 「年長さんに楽しんでもらいたい。」というみんなの共通の思い（目的意識や相手意識）を大切に、友だちと力を合わせる場と機会を設定する。
- 「やった!」と笑顔で達成感を味わえるように、また友だちのよさや自分の成長に気付き、自尊感情を高められるように、子どもたちの頑張りを認めてほめる。
- アケビや校庭の銀杏の実を拾って食べるなど、五感を通して秋を感じる感動体験を重視し、主体的に自然に関わったり活動したりできるように単元構成を工夫する。
- 自分の思いを自分の言葉で伝え合い、高め合う子どもの育成を目指し、学習活動の中に、自分の感じた気付きや発見を書いたり伝えたりする時間や、お店づくりの作業の中で、試行錯誤や工夫を繰り返し、友だちとともに達成感を感じられるような時間を仕組む。



【実践と育ってほしい10の姿との関連】

- ・目的意識・相手意識を持って、互いの思いを尊重しながら活動したことで、『協同性』が育った。
- ・秋の宝物を使ってどんな遊びができるか、どんなお店が作れるか試行錯誤し、よりよいものを作ろうと工夫することで『思考力の芽生え』が育った。
- ・身近な自然にたっぷり触れたり、五感を通じた感動体験をしたりしたことで『自然との関わり』を深めることができ、『豊かな感性と表現』を深めることができた。
- ・年長児をお店に招くということで、どうすれば喜んでくれるかな、楽しんでくれるかなと考え、接客の仕方を練習し、相手意識を持った『言葉による伝え合い』の大切さを学ぶことができた。
- ・みんなでやり遂げたという満足感や達成感を感じたことで、『自立心・自尊心』が育った。

4 幼児期の学びに向かう力を小学校へつなぐ取組

○園と小学校の職員交流会、職員合同研修会、スタートカリキュラムの研修

○園児の参加：運動会、年長児交流会（チューリップの球根植え・秋のたからものまつり）
新1年生を迎える会

○スタートカリキュラムの作成

○就学前の保護者による1年生の学習参観

今後も、園と小学校が交流・連携を深め、子どもたちをスムーズに園生活から小学校生活につないでいけるよう取り組んでいきたい。

5 研究の成果と課題

今年度、幼児期の『学びの芽』を児童期の『学びの基礎』へとスムーズにつなぐための在り方を探ってきた。保育者・指導者が「つきたい力」のねらいと具体的な指導計画を明確に持ち、一人ひとりの子どもの姿をしっかり掴んで育てること、また、子どもたちに様々な体験を仲間と共有させることを通して、コミュニケーション力や、主体的に活動したり、学んだりする力を伸ばすことができた。

今後も、園と小学校が密に研修を深め、保護者や地域と一体となり、子どもたちが生き生きと『学びに向かう力』をつけていけるような実践を積み重ねていきたい。

「学びの基礎」の3つの要素からみる幼児期と児童期のつながりの概念図



【スタートカリキュラム スタートブック】国立教育政策研究所 平成27年(月)（巻末に添付）

幼児教育の内容と小学校教育の教科等との関連

国語	算数	社会	総合的な 学習の時間	理科	音楽	図画 工作	体育	道徳	特別 活動
		生活科							

スタートカリキュラムを通じて、各教科等の特質に応じた学びにつなぐ

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

健康な心と体

充実感や満足感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に動かしながら取り組むようになる。

自立心

自分でしなげなければならないことを自覚して行い、諦めずに行い続けることで満足感や達成感を味わいながら、自信をもって行動するようになる。

協同性

互いの思いや考えなどを共有し、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながら行い続けるようになる。

道徳性・規範意識の芽生え

してよいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するとともに、自分の気持ちも調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりを作ったり守ったりするようになる。

社会生活との関わり

重鎮を大切にしようとする気持ちをもったり、自分が強に立つ喜びを感じ、他者に一歩の譲り歩きもったりするようになる。

思考力の芽生え

思い返らし手製したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しみ、新しい考えを生み出す喜びや味わいながら、自分の考えよりよいものにするようになる。

自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、身近な事象への関心が高まったり、自然への愛情や畏敬の念をもったりするようになる。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

数量などに親しむ体験を重んじたり、標識や文字の役割に気付いたりして、数量・図形、文字等への関心・感覚が高まるようになる。

言葉による伝え合い

言葉を通して先生や友達と心を合わせ、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、思い返らしたことなどを言葉で表現して楽しむようになる。

豊かな感性と表現

感じたことや思い返らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりするようになる。

アプローチカリキュラムを通じて、学びに向かう力を小学校教育につなぐ

健康

人間関係

環境

言葉

表現

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」にわらいや内容として示されている5つの領域

(「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(概要)」(平成30年12月21日中央教育審議会)を参考に作成)

平成29年度
学びに向かう力推進事業
取組のまとめ

平成30年3月発行

発行

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課
〒520-8577 大津市京町四丁目1-1